

高等学校における教科指導の充実

国 語 科

「話すこと・聞くこと」の指導の工夫

栃木県総合教育センター
平成20年3月

ま え が き

教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の高校生の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策や提言がなされています。このような中で、平成19年4月には、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、国語科、算数・数学科の2教科で、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。10月末に公表された調査の結果から指摘された課題は、小・中学校においては喫緊の課題となっていますが、一朝一夕に解決することは難しい問題であると思われます。したがって、小・中学校における現在の課題は、とりもなおさず高等学校の課題としても引き継がれることになるでしょう。また、12月には、2006年のPISA調査の結果も公表され、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力を向上させるための対策が急がれる結果となりました。

各学校においても、教育活動の充実・改善に努めているところですが、特に教科指導においては、限られた時間の中で効果的な指導を展開して、生徒の学力向上を図ることは言うまでもありません。

これらのことを踏まえ、総合教育センターでは、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、学力の向上に資することにあります。

今年度は、国語科、地理歴史科、数学科、理科において、教育課程実施状況調査の調査結果等から指摘されている課題を踏まえ、その解決を図るための授業改善の方策等について研究に取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を、各学校の実情に応じて有効に御活用いただければ幸いです。

最後に、今年度の調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙 一

目 次

はじめに	1
事例1 グループによるリレーブックトーク	3
事例2 話し合いと相互評価を通して練り上げるプレゼンテーション	13
事例3 調べ学習の成果をポスターセッションで発表する	19
事例4 「話すこと・聞くこと」の言語活動を通して『羅生門』を読み深める	25
おわりに	35

「話すこと・聞くこと」の指導の工夫

はじめに

国語科では、教育課程実施状況調査やOECD生徒の学習到達度調査（PISA）等の結果から指摘されている課題を踏まえ、学習指導要領の趣旨に則り、今年度の研究テーマを「『話すこと・聞くこと』の指導の工夫」として、研究に取り組んだ。

2007年4月に公表された、「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点」によると、「生徒質問紙調査と教師質問紙調査との比較」において、生徒と教師との意識差が明確にみられたものの一つとして、「人前でスピーチや説明をすること」が挙げられ、次のような分析及び指摘がなされている。

○生徒と教師の意識差

「人前でスピーチや説明をすること」について、教師の約半数は「生徒は興味を持ちやすい」と答えているのに対して、生徒の半数以上は「きらいだった」と答えている。しかし一方で、「普段の生活や社会生活の中で役に立つと思った」と半数以上の生徒が答えており、学習の有用性については教師との意識差はないと言える。つまり、生徒はこの言語活動の意義や必要性は認めているものの、その学習は嫌いなのである。見方を変えれば、3分の1を超える教師が「生徒は興味を持ちにくい」と答えているのは、学習活動の中で生徒のそのような思いを切実に感じているからなのかもしれない。この傾向は前回調査と同様の傾向であり、この言語活動については、一層の指導の改善が求められる。

そのためには、まず、指導が単発的で、単調なものとなっていないか、生徒に必然性を感じさせるものになっているか、実生活や学習活動の様々な場面で活用できるものになっているかなどの視点で、指導の在り方を見直す必要がある。

人前でスピーチや説明をすること(生徒質問紙・教師質問紙)

	好きだった	きらいだった	普段の生活や社会生活の中で役に立つと思った	役に立つと思わなかった
生徒	9.4% <10.4% >	56.6% <47.7% >	51.7% <44.0% >	8.1% <13.7% >
	生徒は興味を持ちやすい	生徒は興味を持ちにくい	※ < >内は平成14年度調査結果	
教師	48.1% <52.5% >	34.7% <36.6% >		

「生徒質問紙調査と教師質問紙調査との比較」では、上の記述に続いて、「文学的な文章を読むこと」の記述（事例4の28頁参照）があり、さらに次の指摘に続く。

指導に当たっては、このような生徒の意識に十分配慮する必要がある。具体的な指導においては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれの授業においても、ともに学び合う中から自分の力が伸びたと意識できるような指導を通して学習の成就感を味わわせ、対人関係能力やコミュニケーション能力、ひいては伝え合う力、生きる力の伸長へとつなげていくことが大切である。

また、PISA調査においては、「読解力」の分野で日本は2000年調査の8位から2003年調査の14位へ大きく順位を下げ、2006年調査では15位となった。（総合平均得点では上位2位グループに位置する。）PISA調査における「読解力」とは、「自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参画するた

めに、書かれたテキストを理解し、熟考する能力」と定義されている。PISA調査で課題とされた「読解力」を育むためには、学習指導要領に示された、「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の各領域にふさわしい教材や言語活動例を調和的に取り上げ、指導の改善を図り、国語力を総合的に高める必要がある。

以上のような状況を踏まえ、本研究調査において、平成17年度は「書くこと」、平成18年度は「読むこと」に関する事例を扱い、今年度は「話すこと・聞くこと」の指導の工夫・改善の研究に取り組んだ。

各事例で扱った単元は次のとおりである。

事例1 グループによるリレーブックトーク

一つのグループにつき一つのテーマを設定して、テーマに基づく複数の本をグループ内でリレーしながら紹介させる指導。

事例2 話し合いと相互評価を通して練り上げるプレゼンテーション

中学生向けの学校紹介のプレゼンテーションのシナリオを、グループでの話し合い活動や、相互評価を通して作成させる指導。

事例3 調べ学習の成果をポスターセッションで発表する

修学旅行の事前研究として沖縄についてグループで調べたことを、ポスターセッションで紹介させる指導。

事例4 「話すこと・聞くこと」の言語活動を通して『羅生門』を読み深める

グループでの話し合いを通して、『羅生門』を読み深めさせる指導。

<研究協力委員>

栃木県立小山城南高等学校	教 諭	横 山 幸 央
栃木県立田沼高等学校	教 諭	天 貝 恵 美
栃木県立大田原女子高等学校	教 諭	赤 羽 聖 子

<研究委員>

栃木県総合教育センター 研究調査部 副主幹 吉澤正光

事例 1

グループによるリレーブックトーク

1 育成を目指す言語能力

本単元は、目的や場に応じて言葉遣いなど表現を工夫して話すという言語能力を育成するために計画したものである。「国語表現 I」の学習指導要領の指導事項「ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。」を指導の中心に取り上げ、「本を紹介するときに、紹介する内容を効果的に伝える工夫をしたり、相手を意識して話し方を工夫したりしている。」という評価規準を中心にして評価する。言語活動例の「ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。」を参考に、「グループでリレーブックトークをする」という言語活動を通して、冒頭で述べた能力を育成する。

本来のブックトークは、本の紹介を一人で言うものであるが、この実践では、グループごとに設定した一つのテーマに基づいて、各メンバーが一冊の本の紹介をリレーするという形態を試みた。その理由は次の三点である。

- ・限られた指導時間の中で全ての生徒を学習活動に参加させるため。
- ・紹介する本やその内容、紹介の仕方などをグループで話し合うことで、より効果的な表現に練り上げさせるため。
- ・指導の対象となる生徒の実態から、あるテーマに沿った本を一人で五、六冊紹介することは困難と思われたため。

また、この実践では、本を紹介するだけでなく、他者の発表を聞いて、紹介された本を読みたいと思った度合いを五段階で評価させた。これは、「話すこと」だけでなく、「聞くこと」の大切さも生徒に意識させるためである。

これらの点を踏まえて、本単元を設定し、学校図書館を会場に学習活動を展開した。さらに、ブックトークの後に作った本の紹介カード(POP)を、ブックトークコーナーを特設して本と共に展示し、単元終了後も学校図書館の利用の促進を図った。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 グループによるリレーブックトーク

(2) 単元の目標

- ①目的や場に応じた表現を工夫して話そうとする態度を身に付ける。 (関心・意欲・態度)
- ②目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする。 (話す・聞く能力)
- ③目的や場に応じた話し方や言葉遣いを理解する。 (知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
①目的や場に応じて、表現を工夫して効果的に話したり、的確に聞き取ったりしようとしている。	①本を紹介するときに、紹介する内容を効果的に伝える工夫をしたり、相手を意識して話し方を工夫したりしている。 ②聞くときに、話題、話し手の意図、強調点などをとらえ、的確に聞き取っている。	①目的や場に応じた話し方や言葉遣いを理解している。

(4) 指導と評価の計画（4時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 5 2	<p>ブックトークの手法を知る</p> <p>(1) 読書に関するアンケートに答え、自身の読書傾向を確認する。</p> <p>(2) 資料1を読んでブックトークの手法を理解する。</p> <p>(3) テーマごとにグループ(2～4人)を作る。</p> <p>ブックトークのシナリオを作る</p> <p>(1) グループでテーマについて考え、発想を広げる。</p> <p>(2) 紹介する本、分担の順序を決める。</p> <p>(3) それぞれのシナリオを作る。</p>	<p>○テーマが重複しないようにする。</p> <p>○テーマに基づき、導入・つながり・まとめの流れを工夫させる。</p>	<p>話す・聞く能力①、知識・理解① (ワークシート資料2の記述の確認)</p>
3	<p>ブックトークをする</p> <p>(1) グループでブックトークをする。1グループにつき10～20分。</p> <p>(2) 聞き手は紹介された本・発表の仕方についてメモを取り、相互評価する。</p>	<p>○シナリオを見ないで発表させる。</p> <p>○自分が読みたいと思った度合いと、発表の仕方の善し悪しについて評価させる。</p>	<p>話す・聞く能力①②、知識・理解① (ワークシート資料3の記述の確認、発表の観察、発表内容の分析)</p>
4	<p>本の紹介の仕方について考え、紹介カード(POP)を作る</p> <p>(1) 前時のメモを基に学習を振り返り、効果的な発表の仕方について考える。</p> <p>(2) 本の紹介カード(POP)を作る。</p> <p>(3) 学校図書館に展示コーナーを作って、本の紹介カード(POP)を展示する。</p>	<p>○自分のメモを見ながら考え、意見を交換させる。</p>	<p>知識・理解① (ワークシート資料3の記述の確認)</p>

※関心・意欲・態度については単元全体を通して評価する。

※この実践は「国語表現I」選択者16名を対象に実施した。

3 評価の例

本単元の「話すこと」の評価規準は、「本を紹介するときに、紹介する内容を効果的に伝える工夫をしたり、相手を意識して話し方を工夫したりしている。」ことである。生徒のブックトークシナリオ**資料2**や発表例の**資料4**にあるように、目的に応じた言葉遣いがなされている。紙面では実際の音声による発表は再現できないが、どのグループも効果的な表現を工夫して発表していた。

また、「聞くことの」評価規準である、「聞くときに、話題、話し手の意図、強調点などをとらえ、的確に聞き取っている。」ことに関しても、**資料3**の例にあるように、発表を聞いた気付

きが記されており、「聞くこと」によって「話すこと」の能力の高まりが期待される結果となっている。

なお、**資料3**の他の気付きとして、次のようなものがあった。

- ・聞き手が紹介された本の続きが気になって、ついつい読みたいと思うような終わり方をするとよいと思った。
- ・自分たちも名場面の紹介をすればよかった。
- ・つかみをおもしろくするとよかった。
- ・内容の紹介だけでなく、読んだ感想を聞きたかった。
- ・本を紹介する場合、あらすじや内容よりも、紹介者がどう感じたかということや、内容の紹介を途中で止めて、興味を持たせるなどの工夫が大切なことに気付いた。

4 成果と課題

(1) 成果

2007年4月に公表された、「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点」では、「読書活動の状況と問題点」として次のような分析及び指摘がなされている。

前回調査では、生徒の本への興味が読書行動へと結び付いていない実態を改善するため「個々の生徒に応じた取組」や「『読んでみたい』と思わせる指導や環境づくり」が提言された。

今回の教師質問紙調査結果をみると、「読書を習慣化させるための特別な取組を行っていますか」において肯定的な回答が8.5ポイント増加(今回調査42.4%、前回調査33.9%)しており、取組に一定の改善がみられる。しかし、教師による学校図書館を活用した授業に関しては、前回調査でも18.2%にとどまっていた肯定的な回答が更に5.1ポイント減少しており、教師質問紙と生徒質問紙のクロス集計をみると、教師の取組が生徒の読書活動や図書館利用にほとんど影響を与えていないという結果が出ているなど課題も多い。

単なる「本を読みなさい」という押し付けの指導でなく、興味を持っているが読み始められない生徒への読書のきっかけづくり、また適切な内容の本が選べない生徒への読書の幅を広げ深める指導などができているのか、そしてそもそも本を手にとろうとしない生徒に読書への興味を喚起できるような構えが教師の側にあるのかなど、それぞれの生徒の実態に応じた具体的な指導の中身の再検討が求められる。

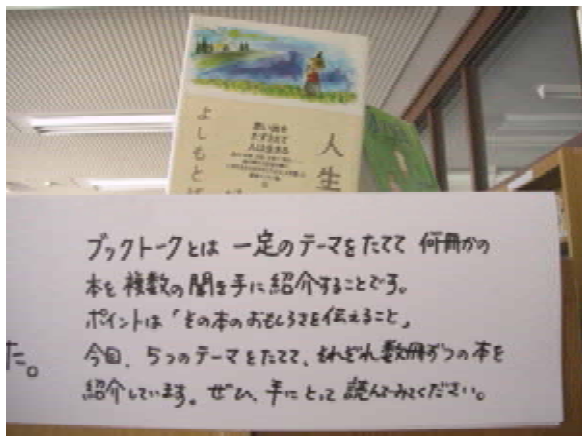
これらの点を踏まえると、本実践の成果として次のようなことが挙げられる。

ブックトークをグループ活動としたことで、発表の準備のためにグループ内で自然に本に関する情報交換が行われた。また、発表活動だけでなく、単元全体を通して「話すこと・聞くこと」の学習が効果的に展開された。ブックトークのシナリオを作る過程で、生徒は本を読んだ感動を生き生きと伝え合ったり共感し合ったりしていた。そして、取り上げた本のよさを伝えたいという気持ちを、ブックトークに効果的につなげることができた。また、この取組では、自分が関心を持ったテーマに関連する本を一人数冊紹介すればよいとため、生徒の読書量の個人差をカバーしつつ、学習の達成感をもたせることができた。

また、生徒は聞き手としても話し手である友人の発表を評価することで、本を口頭で紹介する際の留意点を自ずと学んでいた。

なお、この単元は、学校図書館を会場にして実施したため、身近にある本を利用して学習活動がスムーズに展開されただけでなく、その後も学校図書館の活用がなされた。ブックトークの後

に作った本の紹介カード(POP)を、ブックトークで紹介された本の紹介コーナーで、しばらくの間、本と一緒に展示した。これらの取組により、学習終了後も、全校生徒の目に触れる形で、本の紹介が継続された。学校図書館の活用という点でも効果的な指導であった。



(2) 課題

指導の対象となる生徒すべてが読書に親しんでいるわけではなく、読書量が決して多いとは言えない生徒もいる。そのような生徒が本の紹介をするには、新たに本を読まなければならない、あるテーマに沿った本を探すための読書の時間の確保が難しかったようだ。事前にテーマを設定した上で、長期休業などを挟んで実施すると、より効果的な指導が展開できそうである。そのためには、単元の年間指導計画への位置付けの工夫も必要であろう。

また、ブックトークは読書のきっかけ作りとして有効な手だてであるが、生徒が取り上げた本は、その内容が似通っていた。さまざまな種類の小説や、小説以外のジャンルの本にも目を向け

られるような指導の工夫も必要である。そのためには、読書センターとして学校図書館を活用するだけでなく、学習情報センターとしても利用するという、指導者側の視点の転換や指導の工夫も大切である。

使用教科書

- ・『改訂版 国語表現 I』京都書房

参考URL

- ・図書館教育資料集 <http://suguru.apple.ac/toshosiryoul.htm>

資料1

グループでブックトークをしよう

○ブックトークとは

一つのテーマをたてて、一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介することです。その目的は、「その本の内容を教えること」ではなく、「その本のおもしろさを伝えること」、「聞き手にその本を読みたいという気持ちを起こさせること」です。

読み聞かせや朗読とは違って、本を最初から順に読んでいくということはありません。ブックトークはあらかじめテーマを決め、紹介すべき本をさまざまに取り混ぜて選び、紹介の仕方を考えておきます。今回は、一人で一冊の本を紹介するシナリオを準備し、グループのメンバーでリレー式に紹介します。

○やってみよう

1 テーマを決めます

- ・聞き手の興味・関心、季節や行事などを考慮します。
たとえば……泣ける本 幸せになれる本 感動できる本 ほんわかした気持ちになれる本
青春ストーリー 背筋が凍るミステリー 切ない恋愛本

2 本を選びます

- ・5～6冊を目安にします。(今回は一人一冊)
- ・語り手の好きな本を入れると語りも生き生きとします。
- ・いろいろな分野から、内容に幅をもたせて。
- ・語り手が既に読んでいる本で、聞き手が利用できる本。

3 紹介の順番や方法を決めます

- ・全体を通して一つのストーリー性を持たせるようにします。
- ・紹介の中心に据える本を決めて、山場をつくります。
- ・書名の羅列にならないように、「つなぎ」を工夫しましょう。
- ・次の①～⑥を参考に、それぞれの本について何をどう紹介するか決めておきましょう。
 - ①著者について(自分との関わり、自分が興味を感じている点)
 - ②本の題名について(題名の由来・秘密)
 - ③その本の主張(特色・特徴・おもしろいところ)
 - ④思わず引きつけられるところ(おもしろいエピソード・興味深い記述)
 - ⑤自分とその本の関わり
 - ⑥予想される聞き手とその本の関わり
- ・朗読等もおりにまぜていきます。
- ・しめくくりを考えましょう。

4 ブックトークをします

- ・聞き手が親しみやすい表現で。
- ・気持ちを込めた自然な表現で。
- ・聞き手の様子をよく見ながら。

5 ブックトークが終わったら

- ・「本の紹介カード」を作り、展示コーナーで、広くみんなにその本を紹介しましょう。

リレーブックトークのシナリオを作ろう

生徒の作品例

テーマ

切ないラブストーリー

紹介する本	紹介するポイントのメモ	担当者
はじめ みなさんにとって理想の恋愛ってどんなものですか？ ドラマのようにロマンチックな恋愛ですか？ それともセレブな男性に尽くしてもらうような恋愛ですか？ 人によってさまざまだと思いますが、現実の恋愛は、そんなにうまくいってばかりじゃないですよねぇ。ねぇ。忘れちゃいけないのが、「恋愛に涙はつきもの」だってこと。そこで私達は、ここに、涙なしでは終われない、七冊の切ないラブストーリーを集めてみました。言っておきますが、この中には、ノンフィクション、つまり実話もあるんです。いつあなたの身に同じことが起こるか分かりませんからね～。よ～聞いてくださいね。		A
「天使の卵」 村上由佳	では、まずは三角関係、姉妹同士で恋人を奪い合う相当ドロドロなこの一冊。 〔説明〕	B
「天使の梯子」 村山由佳	そして、この登場人物が成長した後を描いているのがこの本です。 〔説明〕	
「すべての雲は銀の…」 村山由佳	ちょっと待ってください！！まだまだそんなの甘いです！ここにもっと切なく、かつドロドロした物語を用意しましたよ～。それがこの二冊。 〔説明〕	C
「心の鍵」 めぐみ	こちらは、さらにドロドロした話 〔説明〕	
「あなたへ…」 河崎愛美	では、こんなドロドロしたものばかりでは疲れてしまいますよね。ってことで、ここでちょっとひとやすみ。私のおすすめしたいのは、この心温まる一冊。 〔説明〕	A
「あおぞら」 星野夏	そしてこちらは、涙なしでは読めません！ 〔説明〕	
「恋空」 美嘉	では最後にみなさんもよ～知っているでしょう。携帯小説が大ヒットしたので出版されたこの本！ 〔説明〕	D
おわり さて、私たちは切ないラブストーリーをテーマに集めてみたのですが、みなさんは幸せな恋愛をしましょうね。		D

リレーブックトークを聞いて

年 組 番 名前

テーマ：

「読みたい度」を五つ星で表そう

本のタイトル	読みたい度★	内容メモ	気付いたこと
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		
	☆☆☆☆☆		

リレーブックトークを聞いて

生徒の記述例

年 組 番 名前

テーマ： 切ないラブストーリー

「読みたい度」を五つ星で表そう

本のタイトル	読みたい度★	内容メモ	気付いたこと
「天使の卵」	★★★☆☆	三角関係	・疑問で投げかけている。
「天使の梯子」	★★☆☆☆	「天使の卵」の10年後の本	・楽しそうに話してくれるのがいい。
「すべての雲は銀の…」	★★★☆☆	兄に恋人をとられて長野へ	・結末を言わず、
「心の鍵」	★★★☆☆	ぼろぼろになりながらも支えられる	気になるところで止める。
「あなたへ…」	★★★★★	15歳の女の子の手紙	・本の説明を途中でおわす。→読みたい度、アップ！
「あおぞら」	★★★★★	傷ついた心を一人の男の子に救われる話	
「恋空」	★★☆☆☆	ケータイ小説	

資料2で紹介したシナリオとは別に、実際に発表されたものから、二例を部分的に紹介する。なお、これは、生徒の発表を録音テープから文字に起こしたものである。

感動する本

みなさんは最近感動しましたか。毎日、学校が終わったら家に帰るといふことの繰り返しだったりしませんか。だったら、私たちが今から紹介する八冊の本を読んでみてください。

「空への手紙」佐藤律子

この本は、本当に大切な人が死んでしまった時に、その人に対する感謝の気持ちや怒りや謝罪の気持ちなどを天国に届けたいと思って書いたものです。天国の人に届くはずがないと分かっているが、ここに書いて伝えようとしています。どうして感動するかっていうと、亡くなった人に書いた手紙だからっていうのではなく、私も本当に心から思える大切な人だって分かるからです。ここに書いてあること一つ一つに心を動かされるし、大切な人を心から思うことができると思います。みなさんに大切な人はいますか？

「世界の中心で、愛をさけぶ」片山恭一

もう一つは「世界の中心で、愛をさけぶ」です。みなさんも読んだり、映画とか、連続ドラマとかを見たりしたかと思います。みんなが考えたりしたことはそれぞれ違うと思います。この本も大切な人を思った本で、主人公の朔太郎は亜紀に恋をします。でも亜紀は死んでしまいます。亜紀の言葉や朔太郎の言葉が心に響いて人生のことやこれからのことなど、命について考えられると思います。この本に心が動かされると思います。

「いま、会いにゆきます」市川拓司

この本を読むと、大切な人に今すぐ会いに行きたくなります。人は、失って初めて大切さに気付くことが多いと思いますが、そんな経験をしなくても、この本を読めばその気持ちが分かると思います。この本のポイントはその失った大切な人がよみがえるので、別れを二度体験しなきゃならないことです。

「ビューティフルライフ」北川悦吏子

これは彼女が、余命三か月っていわれて、お互いにそのことを知っていながら、それでも彼が彼女を支え続けていく、純粋な愛です。

「ユウキ 世界で8番目のたかひに勝った男の物語」岸川悦子

大切な人へのメッセージが書いてある本です。主人公が過去世界でも七例しかない病気になってしまい、治療法もなく、普通こういう難病ものだと主人公が苦しみながらも周りの人に助けられて頑張っていくというパターンが多いのですが、この本では、主人公のユウキさんが、逆に自分から病気に向かっていって、周りの人を勇気付けるといふもので、そこに感動できると思います。去年の「24時間テレビ」でも取り上げられました。

「バッテリー」あさのあつこ

主人公の原田巧と、同級生の永倉豪という少年が野球を通して絆を深めていく話です。この本を読むと、野球を知らなくても友達との絆をもう一度考えさせられたり、友達を信じることや信じられることの大切さや難しさを考えさせられたりして感動します。

「ラスト・イニング」あさのあつこ

「ラスト・イニング」は「バッテリー」の別冊といふか番外編で、本編の登場人物の中の瑞垣というキャラクターの視点からの話なので、また違ったおもしろさが味わえます。「バッテリー」は今年映画化されて、本を読んでから映画を観るとストーリーもよく分かっておもしろいと思うので、映画の前にぜひ読んでみてください。

「一瞬の風になれ」佐藤多佳子

この本は陸上部の男の子の三年間を書いた本です。「イチニツイテ」「ヨーイ」「ドン」の三部作で、主な登場人物は高校から陸上を始めた新二と天才の連。連は天才なんだけどあまりやる気がなくて、それをチームの人が支えたりしながら、あまり強くない陸上部がどんどん強くなっていくんです。私も陸上部なんですけど、チームでやっていくっていうのがよくて、チームの大切さっていうのがすごくよく分かるんです。すごく詳しく書いてあるので、陸上競技をやっていない人でも、楽しめる本です。走りたいたいと思ったら、すごく気持ちのいい本なので、ちょっと長いんですけど読んでみてください。

「3年B組金八先生 星の落ちた夜」小山内美江子

みんな知ってると思いますが、上戸彩がでてたときのなんですけど、このクラスも個性がすごく強くて、虐待に合っている子とか、性同一性障害の子とかいるんですけど、最初は周りもそういう子のこととかを理解してあげることが出来なくて、差別しちゃったりするんですけど、卒業する頃には理解して、その子のことを応援してあげるっていうクラスの絆ができるんです。

やっぱり、大切な人や愛する人への思いとか、友達やクラスの絆とか、そういう本を読むと感動できるって思うんで、読んでみてください。

切ないラブストーリー

「天使の卵」 村上由佳

主人公の歩太という男の人に夏姫という彼女がいるんですね、歩太のお父さんは病気で入院してて、その病院のお医者さんが実は彼女のお姉さんだったんです。歩太はそのお医者さんに恋をしてしまうんです。で、最初はお姉さんだって知らなくてそのお医者さんをどんどん好きになってっちゃって、三角関係が、どんどん発展していってしまうんです。

「天使の梯子」 村山由佳

その10年後を書いたのが「天使の梯子」。高校時代に憧れていた担任教師の夏姫に再会した慎一。二人は急速に接近していくんですが、慎一は夏姫が見せる淋しげな表情が気になっています。やがて、夏姫には、恋人でも、友人でもない、特別な存在の男性がいると知る慎一。夏姫の心は10年前の“あの時”から、止まったままだったのです。続きは読んでみてください。

「すべての雲は銀の…」 村山由佳

この本の主人公の男の人が自分の兄に恋人をとられてしまって傷心のあまり、長野県に働きに行ってしまうんですけど、自分の心の傷をいやしてもらい感じなんですけど、その中で地元の人との、ふれあいもありつつ、自分の兄とも再会している話して、立ち直って、また自分の彼女に会いに行くって話です。

「心の鍵」 めぐみ

次は「心の鍵」って携帯小説なんですけど、この話は結構ドロドロした話で、主人公の女の人が風俗の面接に行くところから始まって、それまでつきあった彼氏と別れて、また新しい人とつきあいます。その人とも別れて今度はすごく束縛する男の人とつきあうこととなります。いろいろありながらも、最終的には、そんな自分を支えていたのは自分の家族や友人だったって気付いていくって話です。

「あなたへ」 河崎愛美

びっくりなことにこれを書いたのは私達よりも若い十五歳の女の子です。これは、文化祭で会った男の子に恋した女の子がその思いをつづった手紙を本にしたもので、とくに私が感動したのは最後の一言なんですけど、それが何かはぜひ読んでみてください。

「あおぞら」 星野夏

こちらは涙なしには読めない「あおぞら」という本です。これは女の子が信じていた男の先輩にレイプされちゃって、そういうのでどんどん傷ついていくんですけど、一人の男の子が救ってくれるって話なんです。その男の子がどうにかなっちゃうんですけど、それは読んでからのお楽しみです。

「恋空」 美嘉

みんなも知ってるように携帯小説が大ヒットしたので出版された本です。

その他のリレーブックトークで取り上げられた本

幸せな気持ちになれる本

- 「さくらえび」 さくらももこ
- 「人生の旅をゆく」 よしもとばなな
- 「ハネムーン」 吉本ばなな
- 「夏の庭 The friends」 湯本香樹実

泣ける本

- 「ハッピーバースデー」 青木和雄
- 「優しい心が一番大切だよ ひとり娘をいじめで亡くして」 小森美登里
- 「永遠の友だち」 サリー・ワーナー
- 「星になったチロ イヌの天文台長」 藤井旭

人生について考えさせられる本

- 「自分らしく生きる」 小沢牧子
- 「スタンド・バイ・ユー」 山下英三郎
- 「塩狩峠」 三浦綾子
- 「天国からはじまる物語」 ガブリエル・セヴィン
- 「頭にやさしい雑学読本」 竹内均
- 「なまけもの思想」 安岡章太郎

ズッキ

岸川悦子

「いっほい書と飲むより、いっほい笑った方がいい」
 世界が過去と別しかなければ、
 冒険家、三田雄基と彼を支えた
 友だちとの友情・絆の物語。
 豪華な人柄に、と雖も、心を
 開きまわすようになります。
友だちにしか、

なまけもの 思想

中野 勲

いつの時代でも人の考え、22。
 「思う、ことは変わるない。
 したいなことで感じる、ことは
 たくさんある。

自分らしく生きる

小澤 牧子

自分とは何か、自分はどうして
 生まれきたのか。
 周りには家族や友達などの
 支えの大切さを改めて実感させ
 られる本です。
 毎日を生きて中、一度は読
 んでおきたい本です。

優しい心が一番 大切だよ

「優しい心が一番大切だよ。
 その心を持っていない、あのこ
 たちの方がかわいそう」
 これはいじめによって15歳で
 死に追いやられた小森香澄
 さんが遺した言葉です。
 あなたはこの言葉を聞いて何
 を感じ、何を思っていますか。
 この本を読んで、一度いじめに
 ついて考えてみてください。

「すべての 雲は銀の…」

村山 由佳

恋人の裏切りと心を通さぬ人、
 大学生生活で培った友情・愛に
 ついて来た主人公。
 ちろ、人を愛せたい。
 心も、元は体も。

雑学読本

竹内 均

「ハビの月と尾の境日はどこか、
 「逆立ちして水が飲めるか」
 など、無敵な知識が
 「減量に効果的な方法」
 「ゴキブリを一発で殺せる方法」
 など、有益な知識、
興味を引く知識が満載!

ハッピー バースデー

「お前、生まれてごなきや
 よからには…」
 自分の思い通りに成長した長男
 に対して、できる悪い娘あすかを
 産卵してしまおう。今後あすかは
 どうなるのか…。
 この本は、家族や、友だちなど
 身の周りの人々の支えが、どんなに
 大切か分かる本です。特に、一回
 読むと涙があふれてくるので、
 一人の時に読んでほしい(6/4)

さくらえび

さくら ももこ

みんなが知っている「ちびまる子ちゃん」
 の作者が書く爆笑エッセイ。
 読むと「あ、これある!」「だよー」
 と思えるものばかりだ。
 日常をこんなにもおもしろおかしく、
 それでいて、ほんわかする…
 そんな語が28つ!
 読んだ瞬間に、何もない日常が
 「幸せだなぁ」そう思えるエッセイ。

天使の卵

村山 由佳

19歳の子傭兵学生太。
 赤木には高校の同級生
 だった夏姫という娘が、
 けれど、ある日赤木は18歳年
 精神科医の女性に恋を
 してしまう。
 縁どおのたのはその女性が
 傭兵である夏姫の姉であった
 ことだ。 縁は縁と

ビジュアル・ライフ

「愛」
 の力で人は支い合い、生きる
 余命を告げられた彼女と、共に支え合って生きて
 いく。ともに奮闘しながら、やがてお互いを
 一番理解できるパートナーとしてお互いに愛を
 分かちあう。愛は人を救う。愛は人を救う。

塩狩山

三浦 美穂

「愛」
 の力で人は支い合い、生きる
 余命を告げられた彼女と、共に支え合って生きて
 いく。ともに奮闘しながら、やがてお互いを
 一番理解できるパートナーとしてお互いに愛を
 分かちあう。愛は人を救う。愛は人を救う。

瞬間の風になれ

「瞬間の風になれ」
 とに意味がある
 あなたが「瞬間」を
 味わってほしい。
 瞬間は瞬間の瞬間。
 瞬間は瞬間の瞬間。
 瞬間は瞬間の瞬間。

永遠の友

「たとえ、世界を敵に回しても、
 一緒に過ごせば、
 明日はなくても。
 二人はずっとお互いの味方。
 今までもこれからも、
 永遠の友がそばから
 親友であって、不都合の病
 と知り、そのことで葛藤しながらも
 「永遠の絆」を築いていて
 二人の少女の絆の物語です。
 これはカナリ泣けます。」

は、会いにゆきます

市川 拓

「愛」
 において人は生きがえる…
 愛が人を死んでくれ、その人が記憶喪失
 には生きがえる。伝えていけなかったことなど、生
 きていくことができたことが多し。だから、生きていく

世界の中心は 愛をさげ

片山 恭一

高校時代同じクラス、恋人だった
 さくらとあすか。その当時さくらにさくら
 白血:病になてしま)あすか。
 恋をしてる人、想ってる人、まずこの本を
 読んでみてください。人の心への大切さを知ってください。

ラスト・イニング

あさの あつこ

「バッテリー」の人里キヲクワール球壇の日常で
 作られたストーリー。バッテリーとはちがった
 ところから、新しいバッテリーを築いていく。
 野球に詳しくなくても、きっと楽しめる一冊
 です。友情・夢年に感動します。
「なんで、野球を捨てたんや」

あの人に 届けたらいい 空への手紙

もう消えてしまっても、大切な大切な人のために
 届ける手紙の言葉を送る本。どうも、届きますように。

事例 2

話し合いと相互評価を通して練り上げるプレゼンテーション

1 育成を目指す言語能力

本単元は、目的や場に応じて言葉遣いなど表現を工夫して話すという言語能力を育成するために計画したものである。「国語表現 I」の学習指導要領の指導事項「ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。」を指導の中心に取り上げ、「相手を意識して、必要な情報を聞き手に配慮した表現で分かりやすく話している。」という評価規準で評価する。言語活動例の「ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。」を参考に、「話し合いと相互評価を通して学校紹介のプレゼンテーションをする」という言語活動を通して、冒頭で述べた能力を育成する。

本事例は、夏期休業中に行われる中学三年生向けの「一日体験学習」における、在校生と中学生の交流会で、学校紹介のプレゼンテーションをするという設定で、そのシナリオをグループで話し合いながら作るという実践である。実際の発表に生かすように、発表のシミュレーションを行って、発表の仕方や内容を相互評価し、シナリオを練り上げる学習活動を展開した。相手意識を明確にもたせ、必要な情報を効果的に伝えることをグループ活動での学び合いを通して学習させた。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 話し合いと相互評価を通して練り上げるプレゼンテーション

(2) 単元の目標

①相手意識をもち、聞き手に分かりやすく伝えようとする態度を身に付ける。

(関心・意欲・態度)

②目的・相手・場面に応じた情報を、適切な表現を用いて話す能力を高める。(話す・聞く能力)

③適切な発声の仕方や話す速度など、口頭表現に必要な知識について理解する。(知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
①聞き手に配慮した表現で分かりやすく伝えようとしたり、相手の話を注意して聞き取ろうとしたりしている。	①話すために必要な情報を確認、整理している。 ②学校案内に必要な情報を、聞き手に配慮した表現で分かりやすく話している。 ③必要な情報や効果的な表現に注意して聞き取っている。	①適切な発声の仕方や話す速度など、プレゼンテーションに必要な知識について理解している。

(4) 指導と評価の計画（3時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>プレゼンテーションについて知る</p> <p>(1) 資料1を読んで、プレゼンテーションについて理解する。</p> <p>(2) 学校行事「一日体験学習」の「在校生との交流」（45分間）において、中学三年生に対して自分の学校をどのように紹介したらよいか、グループで話し合う。</p> <p>(3) プレゼンテーションのシナリオをグループで話し合って作る。</p>	<p>○聞き手である中学三年生の立場や既存の知識を踏まえさせる。</p> <p>○黒板や、一日体験学習の当日に配付するパンフレットなども活用したプランを作らせる。</p>	<p>話す・聞く能力①、知識・理解①</p> <p>（ワークシート資料2への記述の確認）</p>
2	<p>発表を相互評価する</p> <p>(1) グループごとにクラスメイトを聞き手として発表する。（シナリオの中の一項目だけをダイジェスト版として、3～5分程度で発表する。）</p> <p>(2) 聞き手は発表内容・発表の仕方について、評価項目に基づいて評価する。</p>	<p>○事実をありのままに話すのではなく、伝えたいことが効果的に伝わるように表現を工夫させる。</p>	<p>話す・聞く能力②③、知識・理解①</p> <p>（ワークシート資料3の記述の確認、発表の観察）</p>
3	<p>相互評価を基にシナリオを練り上げる</p> <p>(1) 評価票を基に、改善点をグループで話し合い、シナリオを推敲する。</p>	<p>○評価票をグループごとに交換し、他者の評価を基に自分のグループの内容を振り返らせる。</p>	<p>話す・聞く能力①、知識・理解①</p> <p>（ワークシート資料2、資料4の記述の確認）</p>

※関心・意欲・態度については単元全体を通して評価する。

3 評価の例

この実践は、プレゼンテーションのシナリオをグループの話し合いで作成することと、発表のシミュレーションにおける相互評価での気づきを原稿の推敲に生かすことを通して、プレゼンテーション能力の向上を図ったものである。紙面では実際の音声による発表は再現できないが、学習活動として取り入れた相互評価**資料3**や自己評価**資料4**の自由記述によって、生徒が互いに効果的な発表の仕方を学んでいる様子が見て取れる。

4 成果と課題

(1) 成果

この実践では、自分の高校の良いところを中学生に知ってもらおうという、目的意識や相手意識を明確に意識させた学習活動によって、生徒の学習意欲の高まりが感じられた。実際には、全ての生徒が一日体験学習で中学生と在校生との交流に参加したわけではなく、あくまでも模擬的に中学生に見立てたクラスメイトを相手にプレゼンテーションを行ったに過ぎないが、初対面で緊

張しているであろう中学生を想定して、高校生がもつ情報を、いかに効果的に伝えるかということグループで話し合い、さまざまに工夫しようという姿勢が見られた。

(2) 課題

プレゼンテーションの学習は、それが生徒にとって必然性のある場面であればあるほど、取組への意欲も高まり、学習の成果も期待できる。他の単元においてもそうした場面を設定して、学習の達成感や有用感を実感できるような工夫が必要であろう。

一日体験学習における、中学生と在校生との交流という設定で、「話し手」として情報の送り手の立場を経験したことを、次は、生徒が大学のオープンキャンパスや学校説明会等に参加した際に、情報の受け手である「聞き手」の立場で、「必要な情報をどう聞き出すか」といった観点をもって臨めるように生かす指導につなげたい。その際に、情報を無批判に受け入れるのではなく、批判的な視点をもって判断できるような能力も身に付けさせたい。

使用教科書

- ・『改訂版 国語表現Ⅰ』京都書房

プレゼンテーション入門

○プレゼンテーションとは

プレゼンテーションとは、元来、計画・企画・調査研究の結果を会議の席で効果的に発表して、相手を説得することです。情報技術が日々進歩する現代社会において、人間が、自ら肉声で行うコミュニケーションの意義が高まっている今、重要視されている分野です。

プレゼンテーションでは、聞き手の共感・理解・納得を得るために、発表の内容とその伝達の方法に積極的な工夫改良を加えることが大切です。口頭の言葉だけでなく、さまざまなツール（道具）を使ったり、寸劇を挿入したりして、聞き手の参加を促す工夫をしましょう。

○やってみよう

今回は、夏休み中に行われる中学生対象の「一日体験学習」の中の『在校生との交流』を例に「プレゼンテーション」に取り組んでみましょう。当日、実際にプレゼンテーションを行うクラス代表の発表者の二人に、できるだけたくさんのアイデアを提供しましょう。

まず、Aを見て、この行事の中で『在校生との交流』の果たす役割について確認しましょう。

Bは『在校生との交流』の中で、説明すべきこととして、学校から発表者に示される資料です。これらを盛り込んで進めましょう。

45分間の中で、何を、どのように紹介していったらよいか、考えてみましょう

A 一日体験学習全体の流れ		B 在校生との交流	
1. 受付・案内	分	1. 発表者 自己紹介	
2. 学校の概要説明（校長先生）	10	2. 学校生活についての説明	
3. 学校紹介		①学習・授業について	
①部活動発表	15	予習・復習・テスト等	
ユネスコ部		②部活動について	
ダンス部		文化部 21部 運動部 12部	
合唱部		③学校行事について	
②学校行事の紹介（映像）	15	創立記念日 全校遠足 運動会	
～体育館から教室へ誘導～		学校祭 球技大会	
4. 在校生との交流	45	修学旅行 送別と感謝の会	
5. アンケート調査	10	④生徒会・生徒会専門委員会	
6. 部活動・施設見学		⑤服装について	
7. 解散		⑥高校入試のアドバイス	
		3. 感想を聞く	

生徒の記入例

『在校生との交流』の流れ

時間	内容	どのように（何をどう工夫するか）
0	あいさつ	さわやかに 笑顔で 出身中学・部活動・趣味も言う
	自己紹介	黒板に名前を書く
5	高校生の生活①	質問「今、予習を日々の日課としている人」
	日々の勉強編	高校の勉強は予習が大切 という話
10	高校生の生活②	部活動に入っている人の平均的な一日を模造紙にまとめて楽しく紹介する
	私的一天	→この部分発表
15		中間テストや期末テストは午前中で帰ること
20	高校生の生活③	テスト教科
	勉強編	印象深い先生のお話
25	高校生の生活④	「パンフレットを見てください」
	部活動編	手元の資料を見てもらう(他校にない部、強い部)自分の部活動について
30	高校生の生活⑤	引き続き 手元の資料を見てもらう
	学校行事編	4月から順に
35	高校生の生活⑥	月に一回服装検査があること
	服装編	きちんとした自分の夏服を見てもらう 冬服はパンフレットを見てもらう
40	受験アドバイス	とにかく繰り返し勉強する 苦手も頑張る 今からでも遅くない

*効果的なプレゼンテーションをするために、質問を工夫したり、黒板、模造紙、フリップボード、現物などの視覚資料を提示したりしよう。

プレゼンテーション評価票

生徒の記入例

組 番 名前

班	発表者	タイトル	コメント
A	〇〇	私の一日	自分の一日を例に挙げるのは分かりやすいし中学生もイメージしやすい。リアルに高校生の生活が分かる。
B	〇〇	購買	クイズ形式で質問していて楽しめた。
C	〇〇	服装	服装のよい例と悪い例をモデルを使って説明していて分かりやすい。中学生も緊張がとけるだろう。
D	〇〇	行事	一つ一つの行事について、詳しく話していて、一定のテンポでなく、飽きずに聞いた。
E	〇〇	休み時間の過ごし方	学校の楽しさが伝わるから、いいところに目を付けたと思う。この学校に怖いイメージを持っている人も安心すると思う。
F	〇〇	運動会	応援合戦の衣装を実際に着せて見せてくれたのがよかった。楽しそうな様子がよく伝わった。
G	〇〇	部活動	自分が入っている部活動を紹介していた。先輩の実体験を聞けるのはいいと思う。中学校よりも部の数が多いので、知らない部について話を聞きたいだろう。
H	〇〇	中学校と高校の違い	高校は中学校に比べて「自由」に行動できることについて話すのもポイントだ。中学生の高校への不安を解消できていてよかった。テレビ・ショッピングのような発表がおもしろい。

○感想 生徒の記入例

- ・中学生は緊張しているから、ユーモアを交えておもしろくしてあげるとよい。
- ・自分の体験とか実物とかを入れるとよい。
- ・自分たちの目線だと「ああ、確かに！」と納得できたけれど、中学生の目線だと、理解するのが少し難しいかもしれないと思ったところがありました。もっと聞く側の立場に立って考えることが大切だと思った。
- ・スピーチなら得意ではないけれど、苦手でもないから、あまり考えずにやっても大丈夫だと甘く見ていたら、あまり良くできなかった。きちんとできるようにするには事前によく考えておかないといけないと実感した。何より、みんなが上手で驚いた。
- ・大切なのは「声」「笑顔」「目線」「分かりやすさ」だと思った。堂々とした姿勢ではっきり話せたら、良い部分がたくさん出てくると思った。どの班にも良い部分があって、学ぶことができた。
- ・みんなそれぞれ分かりやすくおもしろい内容だったので、これを取り入れていこうと思う。
- ・どこにポイントを置くかによって、プレゼンテーションの内容がいろいろ変わってきて、この高校の特徴の伝わり方が違った。
- ・このプレゼンテーションでは、実際に使ったものを見せたりするとより分かりやすくなるし、説明しやすくなると思った。また、自分の体験したことを踏まえて説明するとより分かりやすくなると思う。
- ・いろいろなものと比較しながら話すとイメージしやすいと思った。
- ・話し方やトーン、表情を含めて声はとでも大切だと気がついた。声の出し方の違いで、同じ内容を話しても聞き手に伝わるものが全然違うのだと改めて実感した。
- ・文章をだたら読んだり、セリフを決めて話したりするより、抑揚をつける、感情を込める、アドリブ的な話し方をするなどという工夫をした方が、聞いていておもしろいと感じた。

プレゼンテーションの振り返り

組 番 名前

1 今回のプレゼンテーションを見て、一番よかったのはどのグループでしたか？

A

C

2 1でそう思った理由を簡単に書いて下さい。

A: 行事などの特別なことは全体で説明を受けているので、同じことを何度も聞くより、高校に入った自分の生活を描けるような説明をしたほうがよいから。

パンフレットを見ても分からない本物の高校生の一日は、なかなか聞けないから。

C: 服装の説明というと、つまらない感じを受けるけれども、実際によい例とダメな例を出していて、分かりやすいし、おもしろいから。

聞き手に、「どこが悪いと思いますか？」と質問していて、参加型でよかったと思います。

話し方がうまい。楽しそうだし、場が和む話し方だったから。

3 自分たちのグループのプレゼンテーションで一番よかったところはどんなところですか？

・自分の所属している部活動だけを細かく紹介したところ。(広く浅くより伝わりやすい。)

・実際にあったこと、体験を話せたこと。

・クイズ形式にして聞き手を巻き込んだところ。

4 自分が次にプレゼンテーションをしたら、どんなことに気を付けたいですか？

・自分たち生徒にしか伝えられないものを、よりリアルに紹介するとよい。

・単調に行事の説明をされてもつまらないから、行事を経験して自分がどんな感想を持ったとか、具体的に話した方がよいと思う。

・ただ話すだけでなく、具体物を使う。話し方も一方通行より、会話するようになり問いかけてみたりして、言葉のキャッチボールをした方がよい。

・聞き手に興味を持ってもらえるように、言葉遣いや口調を変えたい。中学生相手なら、少し友達のようにフランクに語りかける。

事例3

調べ学習の成果をポスターセッションで発表する

1 育成を目指す言語能力

本単元は、情報社会において氾濫している膨大かつ多様な情報の中から、目的や課題に応じた情報を適切に収集し活用して表現する能力を育成するために計画したものである。「現代文」の学習指導要領の指導事項「オ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。」を指導の中心に取り上げ、「設定したテーマに関して情報を収集・活用し、筋道を立てて適切な表現を用いて話している。」という評価規準を中心にして評価する。言語活動例の「エ 自分で設定した課題を探求し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。」を参考に、「修学旅行の事前研究の成果をポスターセッションで発表する」という言語活動を通して、冒頭で述べた能力を育成する。学校図書館等を活用して資料を調べて整理し、分析や考察を加えて発表活動を行う。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 ポスターセッション

(2) 単元の目標

- ①目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで話そうとする態度を身に付ける。
(関心・意欲・態度)
- ②目的・相手・場面に応じた情報を収集、整理し、適切な表現を用いて話す力を高める。
(話す・聞く能力)
- ③目的・相手・場面に応じた発表を行うための工夫について理解を深める。
(知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
①課題を解決したり考えを深めたりするために、目的や場に応じて、筋道を立てて効果的に話したり、相手の話を的確に聞き取ったりしようとしている。	①設定したテーマに関して情報を収集・活用し、筋道を立てて適切な表現を用いて話している。 ②聞くときに、話題、話し手の意図、考えの進め方、強調点などをとらえ、必要なことを聞き取り、話し手に対し、確認したり質問したりしている。	①目的・相手・場面に応じた話し方や言葉遣いを身に付けている。

(4) 指導と評価の計画（6時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 2	発表のテーマを設定する (1) 資料1 を読んでポスターセッションの手法を理解する。 (2) 沖縄への修学旅行の事前研究として、グループ（4人×10グループ）ごとに、研究テーマを設定する。	○ポスターセッションは発表者と聞き手との距離が近く、双方向の発表形式であるということを理解させる。 ○聞き手に分かりやすく伝えることが目的であるということを理解させる。	話す・聞く能力① （ワークシート 資料2 への記述の確認）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 研究テーマ 「沖縄の食」（2グループ）、「沖縄の方言」（2グループ）、「沖縄の海」、「沖縄の動植物」、「沖縄の植物」、「沖縄の観光」、「沖縄の戦争と平和」、「キジムナー」 </div>			
3 5	テーマについて調べてポスターを作成し、発表を練り上げる (1) 調査項目についてグループ内で話し合う。 (2) 発表原稿とポスターを作成する。ポスターはA3サイズ用の紙を各グループ4～8枚を使用。 (3) グループ内で役割分担をして発表の練習をする。	○各グループのテーマが重複し過ぎないように調整する。 ○学校図書館やインターネットを活用させる。 ○資料の検索方法を理解させる。 ○疑問点や問題点を話し合わせ、共通理解を図る。 ○見せるポイント、聞かせるポイントを明確にさせる。 ○調べたことを鵜呑みにしないことや、聞き手に分かる言葉で伝えることを意識させる。 ○気付いたことをグループ内でアドバイスさせる。 ○必要であれば手直しをさせる。	話す・聞く能力①、知識・理解① （ワークシート 資料3 などへの記述の確認） 話す・聞く能力② （発表の練習の観察）
6	ポスターセッションを行う (1) 全てのポスターを見て、関心のあるポスターを選ぶ。 (2) 前半と後半に分かれて、発表と聞き手の両方を体験する。 (3) 学習の振り返りをする。	○ポスターを見て、疑問点や詳しく知りたい点などを整理させておく。 ○ワークシートに、実際に発表を聞いた感想などを記入させる。 ○自分の発表について、よかった点や改善点を整理させる。	

※関心・意欲・態度については単元全体を通して評価する。

3 評価の例

情報の収集と活用、分類・取捨選択ができていないか、発表するにあたってどのような工夫をし

ているか、ということを中心に評価した。

生徒の中には、発表に不慣れで、原稿を読み上げるだけというスタイルから脱却できない生徒もいた。しかし、調べたことを基に自分なりの考察を加え、自らの言葉として語る生徒もいた。資料を調べる時間は十分に確保できなかったが、生徒は意欲的に取り組んだ。発表の際も、質問の場面も見られ、単元のねらいを概ね達成することができた。



4 成果と課題

(1) 成果

「話すこと・聞くこと」に指導の重点を置くことで、目的・相手・場面に応じた発表を前提とした調べ学習をさせることができ、単なる調べ学習とは異なる取組ができた。相手に応じて情報の選び方や伝え方が変わることを、生徒に実感させることができた。

また、生徒は発表に際して綿密な準備が必要であることを感じることを学んだようである。調べたりまとめたりする作業を通して、友達同士で学び合う機会も多かった。

発表のスタイルも各グループとも工夫を凝らしていた。本来ポスターは掲示しておくべきものであるが、めくり形式を採用するグループがあるなど、それぞれのグループでアイデアを出し合う場面が見られた。発表の振り返りのための自己評価資料⁴から、よりよい発表のための方策を、互いの発表から学んでいる様子が見て取れた。

(2) 課題

ポスターセッションは、話し手、聞き手が対話する中でテーマについて考察を深め合うものである。しかしながら、ただ話を聞くだけで質問の出ない生徒もいた。聞き手としての質問のポイントを指導しておくことが、より活発な意見交換を導く手だてとなるために、その点が不十分であったことは反省すべき点であった。

また、予想される質問を発表者に予め考えさせたが、十分に想定できる生徒はいなかった。それらについては、自分の発表を第三者の視点で捉えさせるようなポイントをワークシートなどに示して、発表前に考えさせる指導が必要であった。

第6時の発表では、前半と後半の組に分けて発表と聞き手の両方を体験させるようにしたが、生徒は、自分たちと同じ組の班の発表を聞くことができなかった点を課題として指摘した。それだけこの学習を通して「関心・意欲・態度」が形成された証拠でもあり、その点ではこの指導の成果とも言えるのだが、今後は、限られた時間を有効に使って、聞くことに充てる時間を生み出す工夫をしたい。

今後も、「話すこと・聞くこと」の言語活動を「読むこと」や「書くこと」の指導と関連付けて、普段の学習活動の中で積極的に取り入れられるような工夫を心がけたい。

参考URL

- 三省堂「ことばと学びの宇宙」

<http://tb.sanseido-publ.co.jp/kokugo/kokugo/j-kokugo/material/t-material.html>

ポスターセッションをしよう

Q ポスターセッションとは？

A ポスターセッションとは、発表の内容を書いたポスターを壁またはホワイトボードなどに貼って、発表者の前に聞き手が立つ度に、聞き手と会話しながら行う発表形式のことです。ポスターは、発表内容に合わせて、例えば模造紙大の1枚の紙、あるいはA4判の紙を10枚から20枚使って作ります。発表内容は、文字だけでなく、絵や図表やグラフなどを交じえて、分かりやすくまとめます。

ここでは、それぞれのグループが発表内容について理解を深め合うことを目的として、調べたことをA3判の用紙4枚から8枚のポスターにまとめ、それをもとに説明したり質問に答えたりして、互いに交流する活動を行います。

ポスターセッションの流れ

①調べる内容を決め、グループを作る。

- 1) 興味や関心があることをもとに、調べたいテーマ・内容を決める。
- 2) テーマが似ている友達とグループを作る。

②調べて、発表する内容を決める。

- 1) テーマに沿った資料を探し、集める。
- 2) 調べた内容をグループの友達同士で紹介し合う。
- 3) どのようなことを中心に発表するかを話し合っ決めて。

③ポスターを制作し、発表の準備をする。

- 1) 図・表・グラフを作成する。
説明の資料として効果的な図表を考え、工夫する。
- 2) 内容にふさわしいキャッチコピーを作る。
短く、印象的な言葉を工夫して作る。
- 3) キャッチコピー・見出し・図表・文章・資料の出典などを、どのようにポスターに配置するか考える。
- 4) 発表メモを作る。
項目や順番などを記した簡単なメモを作る。
- 5) 聞き手の質問を想定して、答えを用意しておく。
ポスターを補足する資料を用意しておく。
- 6) 役割分担を決める。
全員が発表するように分担する。

④ポスターセッションをする。

- 1) クラスを二つに分け、前半に発表するグループと、後半に発表するグループを決める。
- 2) 前半の発表：ポスターを貼って発表する。後半の発表グループは聞く側になる。
後半の発表：ポスターを貼って発表する。前半の発表グループは聞く側になる。
- 3) 多くの人が聞く機会を増やすために、発表は1グループが2回ずつ行うこととする。

⑤ポスターセッションを振り返る。

- 1) 発表内容について、初めて知ったこと、興味深かったこと、参考になったことなどを話し合う。
- 2) 発表の仕方、聞き方、質問の仕方などについて振り返り、気付いたことをまとめる。

テーマ 沖縄

年 組 番 氏名 _____

グループのメンバー () () ()

1 沖縄の何について知りたいか、できるだけ例を挙げてみよう。

- ・
- ・
- ・
- ・

グループのテーマ 『

』

2 調べること・話し合ったことなどをメモしておこう。

ポスターセッションの言葉を考えよう

年 組 番 氏名 _____

効果的な説明にするために、発表の順番や説明の言葉を工夫しよう。

テーマ 『沖縄の戦争と平和』

キーワード 『17才の悲劇～嵐の中と生きた少女たち～』 (生徒の発表原稿の例)

1	ひめゆり学徒隊とは 沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の生徒・教師で構成された部隊のこと。
2	名前の由来 沖縄師範学校女子部の広報誌『白百合』と沖縄県立第一高等女学校の広報誌『乙姫』を併せて『ひめゆり』という名称になった。実在する花ではない。
3	任務 看護といっても名ばかりで、切断した手足を壕の外へ運んだり、ウジ虫を処理したりした。また、患者の食事や排泄の介助の他に、水くみや食事の運搬などで壕の外に出るという、危険と隣り合わせの任務が多かった。
4	平和とは何か 約60年前、私たちと同じ年代の女学生が、人間の行動とは思えないような活動を強制されていた。私たちができることはいったい何なのか。自分たちの問題として考えていかなければならない。

ポスターセッションをやってみよう

資料 4

年 組 番 氏名

発表するときのポイント <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の反応を確かめながら話す。 ・言葉遣いに気を付ける。 ・声の大きさ、話すスピードに気を付ける。 ・資料を活用する。 <p>*自分の発表の観点を説明してから、詳しい内容に移りましょう。</p>	聞くときのポイント <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ話し手を見る。 ・相槌をうつ。 ・質問や感想を言う。
---	---

発表を振り返ってみよう 4 : よくできた 3 : だいたいできた 2 : あまりできなかった 1 : できなかった

自己評価 発表

声の大きさ・速さ (聞き手にとって適切であったか)	4	3	2	1
言葉遣い (丁寧な言葉遣いができたか)	4	3	2	1
内容 (聞き手に理解してもらえたか)	4	3	2	1
総合評価	4	3	2	1
自分の発表のよかった点と改善点 (記入例) <ul style="list-style-type: none"> ・原稿を見ないで話していた。 ・会話するように話していた。 ・ポスターを有効に活用しながら発表していた。 ・語りかける口調や、疑問の投げかけ。 ・質問を受けて、内容を再度考えることができた。 ・いろいろと考えさせられた。考え方が人によって違うことに改めて気付かされた。 				

自己評価 聞き手

発表について興味関心をもって聞くことができたか	4	3	2	1
発表について質問や感想が述べられたか	4	3	2	1
総合評価	4	3	2	1
聞き手としてよかった点と改善点 (記入例) <ul style="list-style-type: none"> ・間の取り方。 ・もう少し手順良く話が進むとよかった。 				

ポスターの作品例

事例 4

「話すこと・聞くこと」の言語活動を通して『羅生門』を読み深める

※この事例は「読むこと」を主とする指導の単元の事例であり、年間指導計画の上でも「読むこと」の領域に位置付けている。「話すこと・聞くこと」の言語活動は、「読む能力」を育むために取り入れた学習活動である。

1 育成を目指す言語能力

本単元は、文学的な文章を読んで、人物、情景、心情などを表現に即して的確にとらえる能力を育成するために計画したものである。学習指導要領「国語総合」の「C 読むこと」の指導事項「ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。」を指導の中心に取り上げ、「文章の舞台となる情景や、登場人物の描写や心情の推移を的確にとらえている。」という評価規準を中心にして評価する。言語活動例の「(ア) 文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと。」や「(イ) 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。」を参考に、冒頭で述べた能力を育成する。

この実践は、グループで話し合うことで登場人物の人物像に迫ったり、オリジナルの『羅生門』を作成したりする学習活動を取り入れることで、生徒の主体的な学習活動を促し、本文の表現を味わうとともに、作品を通して自分なりの考えを深める学習活動を展開したものである。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 小説『羅生門』（芥川龍之介）

(2) 単元の目標

- ①文章を読んで、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりする態度を身に付ける。 (関心・意欲・態度)
- ②文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 (読む能力)
- ③様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。 (読む能力)
- ④文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解する。 (知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①文章を読んで、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしている。	①文章の舞台となる情景や、登場人物の描写や心情の推移を的確にとらえている。 ②『羅生門』と『今昔物語集（『羅生門』の典拠）』を読み比べて、書き手の意図について自分なりの考えを深めている。	①語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。

(4) 指導と評価の計画（11時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	初発の感想を書く (1)教科書本文を読む。 (2)初発の感想を「感想プリント」に記入する。		関心・意欲・態度① (「感想プリント」の記入状況)
2	物語の冒頭部を読み深める (1)書き出し部分から「羅生門の様子」を読み深める。 (2)物語設定や羅生門の描写から作者の意図についてグループで話し合い、発表する。	○初発の感想を紹介したり視点を示したりして、話し合い活動が活発になるようにする。 ○『羅生門』とその典拠である『今昔物語集』の比べ読みを通して、『羅生門』における作者の表現の意図に気付かせる。 ○「国語総合」『絵仏師良秀』の単元(5月)での、『地獄変』との比べ読みを踏まえて、二次的創作の作品における表現意図を考えさせる	読む能力① (ワークシート資料1への記入状況) 読む能力② (ワークシート資料1への記入状況、発表の内容)
3	「下人の人物像」を話し合う (1)本文より「下人」の描写をまとめる。 (2)(1)の学習を踏まえて「下人の人物像」をグループで話し合い、発表する。	○「下人の人物像」をグループで話し合う際は、根拠を本文に求めることに注意させる。	読む能力① (ワークシート資料2への記入状況) 読む能力② (ワークシート資料2への記入状況、発表の内容) 関心・意欲・態度① (ワークシート資料2の記入状況)
4	「羅生門の下」での下人の心理を理解する (1)本文の叙述に即して、「下人」の心理を的確に読み取る。	○「下人」が自分の状況を把握し論理的に結論を出しながらも、情動的に認められないという心理であることに注意させる。	読む能力① (ワークシートへの記入状況)
5	物語の中盤を読み深める (1)「はしごの中段の下人」と「楼上の老婆」の描写をまとめる。 (2)「老婆の人物像」をグループで話し合い、発表する。	○「老婆の人物像」をグループで話し合う際は、根拠を本文に求めることに注意させる。 ○「第2時」の注意点と同様、『今昔物語集』を比較させる。	読む能力① (ワークシート資料3への記入状況) 読む能力①・② (ワークシート資料3への記入状況、発表の内容) 関心・意欲・態度① (ワークシート資料3の記入状況)
6	「はしごの中段」での下人の心理を理解する (1)「楼上の老婆」を見た「下人」の心情を理解する。 (2)本文の叙述に即して「下人」の心理を的確に読み取る。	○「楼上の老婆」を見た際の「下人」の心情が、どのように移り変わっていくのかに注目させる。	読む能力① (ワークシートへの記入状況)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
7	「羅生門楼上」での下人の心理を理解する (1) 本文の叙述に即して「下人」の心理を的確に読み取る。 (2) 「老婆」が自分の行為を正当化しようとする際に用いた論理を理解する。	○前時で学習した「下人」の心理がどのように変化しているかに注目させる。 ○「悪に対する悪の肯定」と「生きるために仕方なくする悪の肯定」の二点で老婆の論理が成り立っていることを理解させる。	読む能力① (ワークシートへの記入状況)
8	物語の結末を読み取る (1) 「老婆」の話聞いた「下人」の叙述に即して「盗人」になるまでの心理を的確に読み取る。	○「下人」が悪を働くにあたって、「老婆」の論理を利用している点に気付かせる。 ○前時までの「下人」の描写と、本時との相違や『今昔物語集』との違いに注目させる。	読む能力① (ワークシートへの記入状況) 読む能力② (ワークシートへの記入状況、発表の内容)
9 11	小説『羅生門』の設定を1つだけ変えて、オリジナル『羅生門』を創作する (1) 設定を変える部分や、変更後のオリジナル『羅生門』の構成をグループで話し合い、物語を作る。 (2) 各グループで作成したオリジナル『羅生門』の発表を聞き、感想を記入し、評価する。	○変える設定は、下人の心理を揺さぶるような設定であることを条件とする。 ○話し合い活動や物語作成が滞ってしまったグループには、例を示して活動が活発になるよう配慮する。 ○各発表につき数名ずつ感想を発表させる。	読む能力① (ワークシート資料4への記入状況、発表の内容) 関心・意欲・態度① (評価シート資料5の記入状況)

3 評価の例

第1時で初発の感想を書かせる際に、単に「感じたこと」を書かせるだけでなく、「疑問に思ったところ」「表現が面白いと思ったところ」など、いくつかの視点を提示して考えさせたところ、平素は感想を「書くこと」に対して消極的な生徒から、様々な感想や気付きが出され、その後の学習に対する「関心・意欲」の高まりが感じられた。(初発の感想資料7)

第2時から第5時での話し合いの場面や、第9時から第11時でのオリジナル『羅生門』の創作活動の場面では、生徒は教科書本文を丹念に読み返しては、読み取ったことを元に活発に話し合っていた。普段は教材文を受動的に読んでいるような生徒が多いが、この単元では主体的に教材文に向き合い、読み味わったり読み深めたりしている様子が見て取れた。生徒が話し合いを通して練り上げたオリジナル『羅生門』は、芥川の『羅生門』の文体や雰囲気や踏まえて世界観を保持しつつ、新たな展開を書き加えた作品になっていた。(作品例資料6)

4 成果と課題

(1) 成果

この実践は、グループで話し合うことで登場人物の人物像に迫ったり、オリジナルの『羅生門』を創作したりする学習活動を取り入れることによって、「文学的な文章を読んで、人物、情景、心情などを表現に即して的確にとらえる」能力の育成を目指したものである。指導に当たっては、

授業者主導の講義に陥らないように留意し、生徒が話し合い活動を通して主体的に教材に向き合えるような指導を心がけた。

その留意点の一つとして、生徒の初発の感想を単元のあらゆる学習活動に紹介する機会を取り入れた。3クラス分の合計約120名の生徒の初発の感想を分類すると、『羅生門』で扱いたい事項がほとんど網羅されていたことに感心させられた。生徒は、他者の読みを自分の読みと比べるなどして読み深めながら教材と向き合うことができた。**資料7**

また、前述のグループでの話し合い活動において、「人物、情景、心情などを表現に即して的確にとらえ」つつも、新たな人物像の設定やオリジナル『羅生門』の作成など創作的な活動を取り入れた。この活動は、まさしく芥川龍之介が『今昔物語集』から、『羅生門』を執筆した際の思考活動と通じるものがあるのではないかと考え、『羅生門』の読解において、『今昔物語集』と『羅生門』の比べ読みをさせ、書き手の意図について考えさせた。その結果、話し合いによるオリジナル『羅生門』の創作活動を通して、芥川『羅生門』における老婆が下人の心理を揺さぶったことに気付き、ほとんどのグループが「老婆」の部分を変更し、なおかつ『羅生門』の世界観を残した作品に仕上げた。また、作品の多くが芥川の文体を真似て作成されていた。これらの点で、話し合いによる他者と自分の読みの交流を通して、文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、読み深めた様子が見て取れた。

なお、2007年4月に公表された、「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点」によると、「生徒質問紙調査と教師質問紙調査との比較」において、次のような分析と指摘がなされている。

実社会では、様々な場面で、単なる教養にとどまらず、文学的な文章を読むことによってはぐくまれる豊かな情緒や感性の大切さが再認識されてきており、このようなことも踏まえた指導の改善が求められる。

文学的な文章を読むこと(生徒質問紙・教師質問紙)

	好きだった	きらいだった	普段の生活や社会生活の中で役に立つと思った	役に立つと思わなかった
生徒	29.6%	40.7%	30.3%	23.8%
	生徒は興味を持ちやすい	生徒は興味を持ちにくい		
教師	64.3%	13.0%		

指導に当たっては、このような生徒の意識に十分配慮する必要がある。具体的な指導においては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれの授業においても、ともに学び合う中から自分の力が伸びたと意識できるような指導を通して学習の成就感を味わわせ、対人関係能力やコミュニケーション能力、ひいては伝え合う力、生きる力の伸長へとつなげていくことが大切である。

この調査に見られる教師と生徒の意識の差の背景には、いわゆる教師主導のパターン化した講義形式による授業の影響があるのではないだろうか。その点で、この単元において、登場人物の人物像を話し合ったり、話し合いを通してオリジナル『羅生門』を創作したりする活動を通して、多くの生徒が個人の読みでは気付かなかった多様な読みに出会うことで、読みを深めることができたと思われる。

(2) 課題

「下人」と「老婆」の人物像を話し合わせる際には、根拠を本文に求めるように注意させたが、グループの多くの話し合いの内容が、やや奇をてらったようなものになってしまった。それは、話し合い活動に生徒が意欲的に取り組んだ証でもあるのだが、オリジナル『羅生門』作成の前段階の活動としては改善の余地がある。今後同様の指導を展開する際には、マインド・マップの手法を取り入れて、発想を有機的に広げさせるような改善を加えたい。

また、自分の考えをグループ内で発表する、いわゆるバズセッションは進んでできるが、グループでまとめたものを全生徒の前で発表することはうまくできない生徒が多かった。そのため、他のグループの発表を聞いて評価するという活動がうまくいかなかった。今後は、他の科目や単元での「話すこと・聞くこと」に関する指導との連携を図って、発表や聞くことが効果的に展開できるように指導計画を練り直したい。

使用教科書

・『改訂版 高等学校 国語総合』第一学習社

参考文献

- ・『今昔物語集 四』（『日本古典文学全集』小学館）
- ・『今昔物語集 本朝世俗部四』（『新潮日本古典集成』新潮社）
- ・中洲正堯・国語論究の会著『表現する高校生—対話をめざす教室から—』三省堂
- ・北川達夫 フィンランド・メソッド普及会『図解 フィンランド・メソッド入門』経済界

資料 1

<p>『羅生門』ワークシート 1年（ ）組（ ）番 氏名（ ）</p>	<p>1 羅生門（羅城門）の様子をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none">・広い門の下には、この男のほかにだれもいない。・丹塗りのはげた、大きな円柱に、きりぎりすが一匹とまっている。・羅生門の修理などは、だれも捨てて顧みる者がなかった。・狐狸が棲む。盗人が棲む。とうとう引き取り手のない死人を、この門へ持ってきて捨てていく。・気味を悪がって、この門の近所へは足踏みしない	<p>2 羅生門が荒れ果ててしまった理由を本文から抜き出そう。</p> <ul style="list-style-type: none">・この二、三年、京都には、地震とか辻風とか飢饉とかいう災いが続いて起こった。洛中のさびれ方はひととおりではない。・仏像や仏具を打ち砕いて、丹や金銀の箔がついた木を薪の料に売っていた。	<p>3 『今昔物語集』を読み、物語設定における『羅生門』との違いを抜き出してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none">・盗みせむがために京に上りける男・羅城門の下に立ち隠れて立てりけるに・朱雀の方に人しげく行きければ、人の静まるまでと思ひて・山城の方より人どものあまた来たる音のしければ、それに見えじと思ひて	<p>4 『今昔物語集』と『羅生門』を比較して、作者の表現の意図について話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none">・『今昔物語集』では、人通りがあるのに、『羅生門』ではだれもない。・『羅生門』には門が荒れ果てている様子や、洛中のさびれた様子が書かれている。・『今昔物語集』では、すでに盗人であるのに、『羅生門』では「一人の下人」という設定である。・『今昔物語集』では盗人であるため隠れているが、『羅生門』では雨やみを待っている。	<p>《作者の表現の意図》</p> <p>←</p> <p>羅生門の気味の悪い様子 一人の下人が盗人になるまでの心理を描く</p>
---	--	--	--	---	---

『羅生門』ワークシート ―下人の人物像について話し合おう―

1年()組()番 氏名()

1 本文から「下人」の描写を抜き出そう。

- ・洗いざらした紺の襦のしりを据えて、
- ・右のほおにできた、大きなきびを気にしながら、
- ・ぼんやり雨の降るのを眺めていた。
- ・主人からは、四、五日前に暇を出された。
- ・「雨に降り込められた下人が、行き所がなくて、途方に暮れていた。」
- ・どうにもならないことを、どうにかしようとして、とりとめもない考えをたどりながら、雨の音を聞いていた。

2 文中の描写に根拠を求めながら、「下人の人物像」をグループで話し合っ作り上げよう。

- ・職業は？
- ・仕事ぶりはどうだったのか？
- ・年齢や性格は？
- ・なぜ羅生門にいたのか？

(話し合った人物像の例と考えの根拠)

○十八歳(↑大きなきび)、大工の弟子(想像)

主人は六十歳すぎの怖い人(想像)

下人は面倒くさがり、働く意欲に欠ける(↑四、五日前の解雇)

次の職を考えているうちに羅生門に着いた(↑四、五日前の解雇)

好奇心旺盛(↑羅生門に上る)

○十五歳、十三歳で父死亡

大家族の長男で農家に働きに出る(想像)

芋の盗み食いがばれた(3回目)のでやめさせられた(想像)

父が昔、羅生門に連れてきてくれたので思い出して来た(想像)

3 他のグループの「下人の人物像」の中で興味深かったものをメモしよう。

『羅生門』ワークシート ―老婆の人物像について話し合おう―

1年()組()番 氏名()

1 本文から「はし」の中段の下人」の描写を抜き出そう。

- ・一人の男が猫のように身を縮めて、息を殺しながら、上の様子をうかがっていた。
- ・短いひげの中に、赤くうみを持ったなきびのあるほおである。
- ・下人は、やもりのように足音を盗んで、

2 「羅生門の楼上の老婆」の描写を抜き出そう。

- ・檜皮色の着物を着た、背の低い、やせた、白髪頭の、猿のような老婆
- ・猿の親が猿の子のしらみを取るように、その長い髪の毛を一本ずつ抜き始めた。

3 『今昔物語集』の老婆はどんな人物設定になっているか。

- ・年いみじく老いたる姫の、白髪白き
- ・髪の毛を抜いている人物(若くして死んだ女性)に仕えていた。

4 文中の描写に根拠を求めながら、「老婆の人物像」をグループで話し合っ作り上げよう。

・今まで(都が荒れ果てる前まで)はどんな人生を送ってきたか？

・どこに住んでいるのか？

・髪の毛を抜くことを始めたきっかけは？

(話し合った人物像の例)

○昔は主人に仕えていたが、京の街が荒れて主人が死んでしまった。そのため羅生門に住みつく。

○昔は裕福だった。八十歳くらいで歯が抜けている。ずる賢く、悪知恵が働く。着物はつきはぎだらけ。夫は死に、息子にも見放された。

○八十五歳。夫と二人で農家を営んでいた。おしどり夫婦であったが、夫は栄養失調で死んだ。夫が先に死んでしまったので、かつらを作って売ろうとした。

5 他のグループの「老婆の人物像」の中で興味深かったものをメモしよう。

1 『羅生門』の設定を1年()組()番()氏名()を話し合っておろう。私のグループは [] を [] に変えます。

2 変えた部分をふまえて、オリジナル『羅生門』のあらすじを書こう。

3 あらすじをもとに、オリジナル『羅生門』を作成しよう。

オリジナル『羅生門』相互評価票 1年()組()番 氏名()

	変えた設定	結 末	コ メ ン ト
A			
B			
C			
D			
E			
F			

オリジナル『羅生門』を作った感想や、他の班の発表を聞いた感想などを自由に書こう。

下人の問いに老婆は、行方不明になった理由や今までの事を、ぼつり、ぼつりと話し始めた。老婆が全てを話し終えた頃には、周りはずっかり暗くなっていた。しかし雨は降り続けている。話を聞き終わった下人は、静かに涙を流し、老婆を優しく抱きしめた。

雨がやんだ頃の、羅生門の楼には、二人の姿はもうなかった。

作品例5 「老婆」を「下人の祖母に似た老婆」に変える

下人の目は、そのとき、初めて、その死骸の中にうずくまっていた人間を見た。椀皮色の着物を着た、背の低い、やせた、白髪頭の老婆だ。しかし、よく見ると、その老婆の顔は下人の祖母に似ていたのだ。その時下人は、老婆に対して親近感を覚えた。

「しかし、老婆の手元を見た瞬間、下人の顔は青くなった。老婆が死人の髪の毛を抜いていたからだ。下人はそれを見て、一瞬にしてさきほどの親近感が消えてしまい、気味が悪くなった。そして、下人は老婆をとめようとした。

「なにをしている。」と下人は言った。老婆は一目下人を見て弩にでもはじかれたように、飛び上がった。

下人を恐れた老婆は、あっさりと自分のしたことについて話した。

「この髪を抜いてな。かつらにしようと思うたのじゃ。」

下人の心は冷ややかになるばかりであった。老婆は続けた。

「死人の髪を抜くという事は、なんぼ悪いことかもしれぬ。しかし、この女も悪いことをしたし、だからわし悪いことをしなければいけないのだ。」

下人の老婆に対する視線はすでに、醜い物を見るような目であった。下人がこのような感情を持つには理由があった。下人の祖母はとても優しい人柄で、時には厳しい人だった。だから、この祖母に似ている老婆の卑しさが浮き彫りになったからである。

「このような人間に落ちぶれてたまるか。いくらこのような現状に立たされても、人間の情を忘れてはならないだろう。」

下人は静かにその場を離れようとした。老婆は立ち去る下人に困惑したが、下人は振り返りもしなかった。

下人は、はしごを下りて、来た道を帰ってゆく。行くあてはない。その夜の羅生門の楼の上では、死人を漁る音がずっと続いていた。

作品例6 「老婆の行動」を「違う行動」に変える

下人の目は、そのとき、初めて、その死骸の中にうずくまっていた人間を見た。椀皮色の着物を着た、背の低い、やせた、白髪頭の猿のような老婆である。その老婆は、右の手にあぶく物を持って、そのお魚の焼き加減を眺めていた。表面のうるこの様子を見ると、たぶん鯉であろう。

下人は、六分の空腹感と四分の好奇心とに動かされて、暫時は息をするのさえ忘れていた。

その鯉が、黒くなるのに従って、下人の心には空腹感が少しずつ増していった。そうして、それと同時に、この鯉に対する欲望が、少しずつ動いていった。いやこの鯉に対する欲望が、一つ一つ強くなるかもしれない。むしろ、あらゆる食物に対する欲望が、一つごとに強さを増してきたのである。そのとき、下人は我慢できずに、老婆の前に現れた。そして下人は、

「その魚をよこしたまへ。」と言って老婆から魚を奪い取った。その魚を奪い返そうとしたとき、老婆はたき火を倒してしまった。

羅生門は火の渦にのみこまれた。老婆と下人の行方は誰も知らない。

作品例7 「老婆」を「若い女」に変える

下人の目は、そのとき、初めて、その死骸の中にうずくまっていた人間を見た。くすんだ白い着物を着た小柄の若い女である。死骸の一つ一つをかきわけていた。

下人は、七分の恐怖と三分の期待に動かされ、暫時はまばたきをするのも忘れていた。下人は忍び足で若い女に近づいた。そして、

「何をしているのだ。」

と声をかけた。

すると、若い女は驚いた顔でふりむき、ふるえた声で、

「このたくさんの死骸の中から殺された母の遺体を探しているのです。」

と言った。下人の心から恐怖がいつのまにか恐怖が消えていた。

「どうして殺されたのだ。」

と下人は言った。若い女は泣きながら、こう答えた。

「うちには、借金があったのです。」

下人は母親の特徴を聞き、黙々と探したのである。ようやく見つかり、下人は立ち去ろうとした。

「何か恩返しをさせていただけませんか。私には財産も何も持っていないので、

せめて私をもらっていただけませんか。」

下人は深くうなずいた。その後下人は働きに出て、質素だが子供も授かり、三人で幸せな日々を送った。

作品例8 「老婆」を「美しい娘」に変える

階段を上ると下人の目には、死骸の中にうずくまっていた人間を見た。水色の着物を着た、背の高い、きれいな黒髪から白い肌をのぞかせ、大きな黒い瞳の若い女性が死骸の髪の毛を抜いていた。下人の心には、今までにない衝撃と疑問が走った。

下人には、なぜ美しい娘が死人の髪の毛を抜くのかわからなかったと同時に、好奇心も生まれた。

そこで下人は、両足を力を入れて、いきなり階段から上へ飛び上がった。下人の

気配に気づいた美女は驚いて振り返ると、下人を見て奇声をあげた。そこで下人は、

美女に問いかけた。

「何をしているのか。」

その問いかけに美女はとまどいながらも口を開いた。

「この髪の毛を抜いてかつらにしようと思っただけです。」

下人は美女の哀れさに心を打たれ、何も言わずに美女の隣に腰をおろし、死人の

髪の毛を抜き始めた。しばらくの間沈黙が続き、美女はそれに耐えきれなくなり、

その場から逃げ出そうとした。下人はそれに気づき、美女の腕をつかみ、こう言っ

た。

「これからの人生を私と共に過ごさないか。」

下人の突然の告白に美女は少し戸惑ったが、恥ずかしがりながらも、微笑みなが

らうなずいた。

二人の行方は誰も知らない。

オリジナル『羅生門』集

作品例1 「老婆」を「少年」に変える

下人の目は、そのとき、初めて、その死骸の中にうずくまっていた人間を見た。藍色の着物を着た、背の低い、坊主頭の少年である。その少年は、右の手に火をともした松の木切れを持って、その死骸の一つの顔をのぞき込むように眺めていた。髪の毛の長いところを見ると、たぶん女の死骸であろう。

下人は、七分の好奇心と三分の恐怖とに動かされていた。少年は、松の木切れを、床板の間に挿して、それから、今まで眺めていた死骸の首に両手をかけると、ちょうど、猿の親が子のしらみを取るように、その長い髪の毛を一本ずつ抜き始めた。その髪の毛が、一本ずつ抜けるのに従って、下人の心からは恐怖心が消えていった。下人の心は好奇心に満ち、少年がなぜ女の死骸の髪を抜いているのかという疑問が浮かび上がった。下人はゆっくり少年に歩み寄り、

「坊主、そこで何をしている。」

と声をかけた。少年は、初めは下人の声に驚いていたが、逃げようとする気配もなく静かにこう答えた。

「わしは一昨日母さんを亡くした。疫病だった。悲しかったがな、わしは母さんの分まで強くなりたいたいじゃ。だから母さんの髪の毛を形見として抜いていたのじゃ。」

下人は、少年の話を聞き終えると大きく溜め息をついた。

「坊主、お前は歳はいくつだ。」

「十歳だ。そうだ、あと抜いた髪をかつらにして売って金にしようと思うのじゃ。母さんも、わしのためなら許してくれるはずじゃ。」

下人はこの平凡な少年の答えに、なぜか感動してしまった。この時、下人は先ほど羅生門の下で悩んでいた事の答えが出ていた。

「坊主、わしはお前の話を聞いて決心がついたぞ。ここでお前に出会えなかったら、飢え死にを恐れて盗人になっておったかも知れぬ。しかし、わしも坊主のように強く生きていきたいと思った。またどこかで仕事を探さねばならん。」

下人は少年の坊主頭を撫でると、急なはしごを降りていった。外には、ただ、黒洞々たる夜があるばかりである。

下人の行方は、だれも知らない。

作品例2 「羅生門の上」を「死体だけしかない場所」に変える

下人はやもりのように足音を盗んで、やつと急なはしごを登りつめた。

楼の中は闇にのまれたように暗く、そして寒かった。下人は目を凝らして周りを見た。するとそこには、噂に聞いたとおり、いくつかの死骸が、無造作に捨ててあった。それらは腐乱しており、下人は思わずその臭気に鼻を覆った。そして、死体につまづかないように、ゆっくりと歩いていった。

下人は、空いている所がないか探し出し、やつと自分一人横になれる場所を見つけ、横になった。そのころには臭いにもなれていて、四、五日前から蓄積していた疲労のため、下人はすぐに雨の音と共に深い眠りについていた。

翌日、楼の中に下人の姿はなかった。外は久しぶりの快晴だった。とても心地の良い朝だった。下人は思った。

「盗人になるのも、飢え死にするのも嫌だ。」

久しぶりの快晴が曇っていた下人の心を変えたのだった。下人は歩き出した。行方、これは噂で聞いた話である。下人は三つほど離れた町で使用人として働いているらしい。

作品例3 「老婆」を「生き別れの母」に変える

下人の目は、そのとき、初めて、その死骸の中にうずくまっていた人間を見た。薄桃色の着物を着た、背の高い、やせた、黒髪のヒョウウのような女性である。その女性は、下人に気づき、近づくと「忠夫：。」とつぶやき一粒の涙をこぼした。下人は自分の名前を呼ばれ驚いた。しかし、その驚きはすぐに消え、それまで下人の心を決めていた恐怖と好奇心も消えた。それと同時にその女性を不審に思う気持ちが生まれた。するとその女性はさらに下人に近づき、下人が首からさげているお守りを手にとった。そして女性は下人に尋ねた。

「このお守りはどうしたの。」

下人は戸惑いながら答えた。

「このお守りは、昔、俺が働いていた所に預けられたときに母が俺に渡した物だ。」

それを聞いた女性は「やっぱ、そうだったのね。」とつぶやいた。そして女性は泣きながら話し出した。

「このお守りを渡したのは私なのよ。実は、あなたがまだ幼かった頃、私たちは生活が苦しくて、それでもあなただけでも元気に暮らしてほしかったから、あずけたのよ。だから別れ際にこのお守りを渡したのよ。こんな私を許してね：。」

下人は真実を知ると、ふと幼き頃の記憶を思い出し、母に対する暖かな感情がわきこぼった。

「俺は怒っていないから、今まで一緒に居られなかった分を、これから取り戻さないか。だから、一緒にくらさないか。」

下人は実の母と分かった女性に、こう言ったが、女性は少し考えると、首を振った。

「忠夫。私はあなたと一緒に暮らせる資格はないわ。だって、私は十数年前にあなたのことを捨ててしまっていたのだから：。」

下人は「そうか。」と言うと、「うん。」とうなずいた。しばらくすると、二人は羅生門をゆっくり出た。歩きながら二人はいろいろなことを語りあった。

「これからはお互い良心を忘れず、別々の道を歩んでいこう。」

「そうね、別々の道を歩んでしまってもいいけれど、あなたのことは忘れないわ。」

母はそうとうと下人と別の方向を向いて歩いていった。すると、下人は立ち止まり、「おおきに。」

と明るく大きな声で言い、走って行った。

下人の首には母からももらったお守りが揺れていた。

作品例4 「老婆」を「下人の母親」に変える

下人は、六分の恐怖と三分の好奇心、そして一分の期待に動かされて、楼の上へ飛び上がった。

「おい、お前。そこで何をしている。」

呼び止められた老婆は、下人を見ると一瞬気まずそうな顔をしてうつむいた。なかなか話をしない老婆は、しびれを切らした下人は、太刀の鞘をはらって、白い鋼の色を、その目の前に突きつけた。けれども、老婆は黙っている。下人は老婆にこう問いかけた。

「もしや、お前：。」

その言葉を聞いた老婆は、まるで弩にでもはじかれたように、勢いよく顔を上げて出口に向かって走り出したが、それを察した下人によって行く手をはばまれた。二人はしびし無言のまま顔を合わせた。下人は、老婆の顔に何故か懐かしいものを感じた。それと同時に思ってもみなかった言葉が、下人の口からもれた。

「：：母さん。」

それを聞いた老婆は勿論、言った下人さえも驚き、困惑した。しばらく経った後、老婆は深く息を吐き、小さく下人の名前をつぶやいた。

「やはり、俺の母親なんだな。何故このようなところに：：。」

資料7

『羅生門』初発の感想(抜粋)
※(一)内の数字は同様の感想を持った生徒数

羅生門の様子

からずの効果と考えた。羅生門の様子を描くうえで必要。不気味・気持ち悪い・怖い・残酷・グロテスク・どきどき(14)
朱雀大路Ⅱメインストリートに死体があることが、ひどい状況を物語っている。
きりぎりすは何の意図? ↓時間の流れをよく表現している。
表現から羅生門の様子がよくわかった。

下人について

動物を使った比喩があった。(下人の様子を生き物を使って表していた。)
にきびの描写が気になった。 ↓右のほおのにきび ↓赤くうみを持った。
下人はなぜ話を聞きながらにきびを気にしていたのか。
下人がリストラされてかわいそう。
なぜ四・五日前に暇を出されて羅生門に来たのか。
下人は羅生門に来た時点で帰れない。
「雨やみを待っていた」 ↓「途方に暮れていた」と言い直しているのが下人の心情を強調していた。
私だったら、こんな気持ち悪いところで雨宿りをしない。
「やもりのように」の表現がわからない。
楼の上に人の気配があったら、普通はしごを上らない。
自分だったら羅生門の上には上がらない ↓死体があるから。

老婆について

なぜ老婆は羅生門にいたのか。
老婆の言葉に共感。わかる気がする。
老婆の毛を抜く理由に自分の拍子抜け ↓別な訳があっても。
老婆の話には、下人の心を動かす何かがある。
老婆は髪の毛を抜いてかつら ↓死人の肉を食べて生きているのでは? 老婆は羅生門の守り神?
頭の中の天使と悪魔の話のよう、老婆の言葉は悪魔のささやき。

結末

続きが気になる(2)
老婆 ↓死人から髪 下人 ↓生きている人間から着物(2)

「きつと、そうか。」が心に残る。 ↓これからする行動の肯定か。もつと別な意味が。
老婆は死んでそう。下人の行方は? 老婆のその後は? (2)
下人の行方は? 着物を売ったか。主人の家に帰ったのか。
老婆がどうなったのか。
老婆はまた髪抜きを再開したのか?
下人の行方は誰も知らない ↓老婆が殺したのでは? (2)
着物をはぎ取った瞬間こそ盗人になった瞬間。
老婆は果たして、下人にされたことに対してどう思ったか。

話の内容

生きるためにやむをえないのでは。
下人の悪を憎む心の変遷に興味・おもしろい・わからないなど。
自分の都合の良いように考えることは誰にでもある。
追い詰められた人間の選択 ↓怖さ(3)
飢え死にか盗人の二択しかない時代はおそろしい。
人間のずる賢さや自己中心的な考え ↓人間をリアルに描く。
人間の残酷さ・弱さ・矛盾がありのままに書かれる。
勇気がなく決断できない下人が悪人になった。昔も今も人間は人の言葉に左右される。
極限状態では人はなんでもするのかな ↓下人も老婆もしかたがないのかも。
自分だったら老婆を止めない ↓生きるためにしかたがないのだから。
下人は悪を否定していたのに老婆の言葉を逆手に取って矛盾している。
着物をはぎ行為は、毛を抜かれている死人たちの代わりにとつたせめてもの行動か?
生きるためにしかたがないという理由・悪人になってまで生きたいという醜い考え。
下人は自分勝手な人間だ。考え方の変化が早い。
失望するからには何か期待していたのでは? 仕方なくやっていると期待。
下人は盗人になる理由・言い訳を必要としていたのでは?
「盗人になる」ことが「勇気」という表現であったのが嫌。

オリジナル『羅生門』のヒントになる感想

羅生門の修理が行われていたら、老婆も髪の毛を抜かないし、下人も盗みを働かなかつたらう。
主人公が下人というのがおもしろい ↓平安Ⅱ貴族というイメージがあるので。
羅生門には、人間を負う方向へ持つていく力があるので?

羅生門は人の気持ちを変えてしまう所だ。
楼の上の人物は、大柄ないかにも悪人がいると予想した。
なぜ老婆なのか疑問。
下人も老婆も最初から悪人ではない。
つかみ合いの時、老婆に勝つ話がいいなと思った。
老婆は下人に勇気を与えるきっかけとなった(4)
この話のキーパーソンは老婆 ↓下人の気持ちを変えた。
羅生門は老婆の話を聞かなければ、盗人にならなかつたのでは? 髪の毛を抜かれた女になぜ生前の悪行について注意をしなかつたのか。下人も老婆に注意すればよい。
老婆の言葉だけで、なぜ気持ちが変わるのか。老婆との接触により下人の心が変化して。
下人は老婆と会って心境が変化している。老婆の存在のおかげで、下人は死なずにすんだ。
下人は残りの人生は盗人で生きたのかな?
老婆との出会いのおかげで下人の勇気が生まれた。
老婆は髪の毛を抜く以外に他に方法がなかったのか。

その他

フランス語の使用が気になる。(4)
人物の名前が出ない。
リアルな文章(3) ↓昔の話なのに現実的。
なんのためにかつらをつくつたのか。(2)
表情や動作が細かい。
生々しい、リアル、人の動作や場面の風景。
「作者は」 という表現がおもしろい、作者が自分で説明をいれているのがおもしろい。
この話は本当の話か、作り話か気になった。
「頭身の毛も太る」の意味は?
一つ一つの表現が細かい。
「すれば」は結局「すれば」の意味がわからない。
あざけるような声とは? 念を押したのはなぜか?
なぜ着物を着たのと裸の死骸があつたのか?
着物をはぎ取る意図は?(5)
髪の毛を抜く行為に興味 ↓驚き。
「ある勇気」とは?(2)

おわりに

各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として有効であったことが分かる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方を参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

1 学び合いを生かして諸能力を向上させる

教室において集団で学ぶことの意義に、生徒同士が学び合うことがある。他者の発表や作品を見聞きしたり、話し合いによって作品を作り上げたりする中から、自己の発表や作品の改善に生かすことのできる視点を見出し、技能の向上につなげることが期待できる。また、個の読みを互いに交流させることで、新たな視点に気付いたり、読みを深めたりすることが期待できる。

事例1では、ブックトークのシナリオをグループでの話し合いを通して作ることや、発表を相互評価することを通して学び合いがあった。**事例2**では、プレゼンテーションのシナリオをグループでの話し合いを通して作ることや、発表を相互評価することを通して学び合いがあった。**事例3**では、ポスターをグループで作ることや、他者との比較をするなどして発表を自己評価する活動をして学び合った。**事例4**では、グループでの話し合いを通して『羅生門』をリライトする活動を通して学び合いがあった。

このように、ともに学び合う中から自分の力が伸びたと意識できるような指導を通して学習の成就感を味わわせ、対人関係能力やコミュニケーション能力の伸長へとつなげていくことが大切である。

2 ペーパーテストに偏らない評価の工夫の一つとしてパフォーマンス評価を取り入れる

(1) 教師の行う評価の工夫

「話す能力」や「聞く能力」を育むためには、実際にそれらの活動をさせてみる必要がある。また、言語技術としてのこれらの技能を評価するために、実技系の教科・科目で一般に行われているパフォーマンス評価を取り入れるなど、ペーパーテストに偏らない評価の工夫が大切である。

事例1ではブックトーク、**事例2**ではプレゼンテーション、**事例3**ではポスターセッションのそれぞれの活動にパフォーマンス評価（ペーパーテストでは評価しにくい種類の能力や学力を、生徒の実技、実演などで様々な観点から評価しようという評価法）を取り入れている。

(2) 学習活動として生徒に取り組みせる評価の工夫

事例では扱わなかったが、場合によっては、生徒のパフォーマンスをビデオに録画して視聴させて、学習活動としての自己評価をさせ、学習の振り返りを通して技能の向上を図るという方法もあろう。

*生徒の自己評価や相互評価は、あくまでも学習活動としてのものである。それらは形成的に評価して後の指導に生かすものであり、総括的評価として点数化し、いわゆる評定に結びつけるものではない。

3 他教科との連携を図って学習活動に情報機器を活用する

学校によっては、生徒が「教科情報」や「課題研究」等でプレゼンテーションソフトを使用した発表活動を体験しており、国語の教師よりもその扱いに慣れていることも考えられる。そのような状況を踏まえ、他教科との連携を図って学習活動に情報機器を活用することも大切である。

事例3では、発表の時間の確保が課題として挙げられたが、その改善のために、例えばポスタ

作りにプレゼンテーションソフトやワープロソフトを活用するという方法もある。そうすれば手書きよりも文字の種類や大きさに工夫を凝らしやすく、レイアウトや推敲作業もしやすい。作成した資料を1頁ごとに適当な大きさの用紙にプリントアウトすれば、手書きよりも短時間で、しかも見栄えよくでき、発表に充てる時間を確保できる。その時間を発表活動に充てることもできよう。

4 実生活や学習活動の様々な場面で活用でき、必然性を感じさせる指導を工夫する

言語活動を取り入れる際に、場面設定を生徒にとって必然性のあるものにするこゝで、学習活動が、より身近で、現実味を帯びたものになり、主体的な取組を促すことができる。

事例1では、クラスメイトに対する本の紹介、**事例2**では、中学生に対する高校生活の紹介、**事例3**では、クラスメイトに対する調べ学習の発表を、それぞれ言語活動として取り入れている。いずれも生徒にとって、必然的な学習活動であり、実生活や学習活動の様々な場面で活用できるものになっている。

指導が単調にならないように、このような言語活動の工夫をすることが大切である。

5 指導のねらいを重点化した上で言語活動を取り入れ、指導に配当する授業時間を確保する

指導のねらいを重点化した上で言語活動を効果的に取り入れ、指導に配当する授業時間を確保することが大切である。

かつての国語科の指導においては、「読むこと」に比べ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の指導が十分に行われてこなかった反省を踏まえて、学習指導要領には、指導に配当する授業時間の目安が次のように示されている。

「国語表現Ⅰ・Ⅱ」

- ・「話すこと・聞くこと及び書くことの指導は、相互の関連を図りながら効果的に行うようにし、授業時数は一方に偏らないようにする。」

「国語総合」

- ・「書くことを主とする指導には30単位時間程度」
- ・「話すこと・聞くことを主とする指導には15単位時間程度」

事例1～**事例3**の学習活動の中には「書くこと」の言語活動があるが、それは、「話す能力・聞く能力」を重点的に育成するというねらいを達成するための学習活動として取り入れたものである。したがって、年間の指導計画にも「話すこと・聞くこと」の単元として位置付ける。

一方、**事例4**では、「読む能力」を重点的に育成するというねらいを達成するために、「話すこと・聞くこと」の学習活動を取り入れたものである。したがって、年間の指導計画には「読むこと」の単元として位置付けることになる。

6 人物描写や情景描写等を深く読み取らせることの新たな意義

ケータイ小説が女子中高生の間で人気を集めている。ケータイ小説は、文章が拙くストーリーも型にはまりがちなことなどから、学校図書館の関係者の間でも、子どもたちの読書の入り口になることを懸念する声がある。しかしながら、出版界もその動向を無視できなくなりつつあるようだ。毎日新聞の「第53回学校読書調査」によると、女子中高生の「人気の本ベスト5」のほとんどがケータイ小説であった。

今後は、国語の授業が、新鮮な感動と驚きをもって名作に出会う貴重な機会になるという高校生が増えるかもしれない。小説を深く読み取らせたり読み味わせたりすることに、新たな意義や必要性が生じつつあるようだ。

高等学校における教科指導の充実
国 語 科
「話すこと・聞くこと」の指導の工夫

発 行 平成20年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>